

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	山本町立森岳小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	2	1	1	0	7	
児童数	22	32	28	42	36	28	0	188	12

研究の概要

1 研究主題

確かな学びをはぐくむ指導の工夫
～一人一人のよさや可能性を發揮できる授業づくりを通して～

2 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全校算数（子どもの理解度に差が生じやすい教科であるため）

(2) 年次ごとの計画

- テ - マ 確かな学びをはぐくむ指導の工夫
～分かる喜び・できる楽しさを味わえる授業づくりを通して
- 研究の見通し（仮説）
- 1 児童一人一人の実態に応じた、多様なかわりの方法や体制を工夫改善することによって、児童は基礎・基本を確実に身に付け、学ぶ楽しさや成就感を体得し、自ら学ぶ態度や能力を身に付けていくであろう。
 - 2 変容の自覚を促す自己評価の場を学習過程に位置付けることによって児童は、成就感と自信をもち、さらに自らの学びを広げていくであろう。また、評価を生かした教師の支援は有効に働き、児童の学力の定着が図られるであろう。
- 研究内容・方法
- (1) 研究の全体構想，計画の作成と組織の確立
 - (2) 「学力」「意識」の実態調査，デ - タの収集と分析
 - (3) 「読み・書き・計算」の習熟を図るシステムづくり
 - (4) 補充学習支援のためのシステムづくり
 - (5) 算数科を中心とした授業実践（個に応じた指導の具体化）

平成
14
年
度

実 践

学習の土台となる力を付けるための学習システムづくり

山びこ学習

読書の奨励

- ・毎日10分間の朝読書
- ・毎日5分間の音読
- ・毎月23日のふれあい読書の時間に、全職員による読み聞

- かせを行い，児童は聞きたい話を選択する。
学習話型・声のものさしの活用
漢字・計算進級テストの実施
- もりもり学習
- ・毎月最終金曜日に体育館で2学年ずつ実施する。
 - ・学級担任以外の教員がチェックを行い，学級担任は個別指導に当たる。
- 休み明け全校漢字・計算テストの実施
放課後の補充的な学習の実施
- チャレンジ学習
- ・学級担任からの要請に応じて学級担任以外の教員が個別指導に当たる。
 - ・学級担任以外の教員は，職員室の黒板に放課後都合のよい時間帯を提示しておく。
- 学習の基礎的事項の定着や意欲を高めるための放課後の学習会の実施
- ・県名あて大会 ・図形パズル大会
 - ・コンパス，分度器，三角定規など用具の使い方の習熟を図る学習 など

一人一人に確かな学力を付けるための工夫

- 授業改善の工夫 T Tを活用した個に応じた指導方法・体制の工夫
- ・算数は全学年1 C 2 T，他に学年によって1～4教科を1 C 2 Tで実施
 - ・レディネスや習熟度，学習ペースなど個に応じたかわりができる指導の実践
 - ・少人数指導の導入
 - ・単元（題材）構成の工夫
 - ・操作活動の充実
教科担任制の実施
 - ・4，5，6年理科 ・3，4，5，6年国語（書写）
 - ・5，6年家庭
- 教材開発の工夫 児童一人一人の評価を活用した補充的な学習や発展的な学習の開発と実践
- 評価の工夫 施設・人材リストの作成
めあてと自己評価の場面を明らかにし，何を学ぶのかを明確にした授業の実践
- その他 評価規準の作成
自学自習の習慣化を図るため，家庭学習の奨励

- テ - マ 確かな学びをはぐくむ指導の工夫
～一人一人のよさや可能性を發揮できる授業づくりを通して～
- 研究の見通し（仮説）
児童一人一人が自分のもてる力やよさ，可能性を存分に生かすことができる指導方法や指導形態，評価の在り方を工夫することによって，児童は学ぶ喜びを感じ，自分の学びをより確かなものにしていくことができるのではないか。
- 研究の内容・方法
 - (1) 14年度の研究の検証と改善
 - (2) 追跡調査の実施と調査内容の検討・改善
 - (3) 学習の土台となる力を付けるための工夫 ～フロンティアタイムの設定～

週時数を1時間増やして児童に必要な学習を支える力を育てるために、毎週金曜日の1校時をフロンティアタイムとし、全校的な活動と学年を中心とした日常的な活動の両方から取り組む。

- ・山びこ学習（山びこタイム・・・第3金曜日、集会活動・・・第1金曜日）
 - ・もりもり学習・・・第4金曜日
 - ・チャレンジ学習・・・第2金曜日
- (4) 一人一人に確かな学力を付けるための工夫 ～算数科の授業改善～
- 個に応じ、個を生かすための指導形態の工夫
 - 一人一人の子どもよさが引き出され、生かされるよう、個性や能力に応じた指導形態を工夫する。
 - 4年生は1C2T・2C3Tで、他学年は1C3Tで指導できるように体制づくりをする。
 - 子どもの個人差を次のように類型化し、個人差に応じたコ・ス別学習に取り組む。

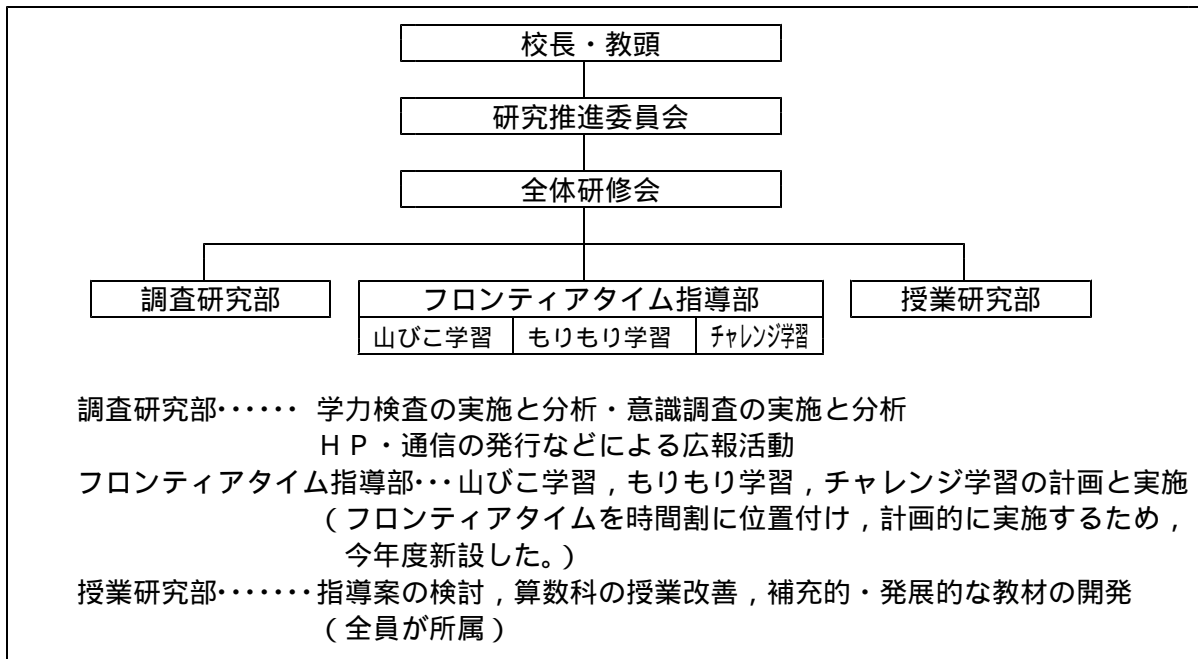
知識・理解・技能の定着に関する個人差
 学習速度に関する個人差
 課題解決方法に関する個人差
 興味・関心に関する個人差
 （課題選択型・順序選択型・操作方法選択型）

- ・補充的・発展的な教材の開発
学習過程の工夫
- ・一人一人の子どもに学習を成立させ、「分かる」「できる」授業を展開するために、「ねらいの明確化・ねらい達成のための手立て・学び合いの場の設定・振り返りカードを生かした自己評価場面の設定」を工夫する。
指導に生かすための評価の工夫
- ・自己評価カードの活用・・・関心・意欲・態度に関する意識の変容を見取るために、振り返りカードを使った自己評価の時間を位置付ける。学習の段階に沿った評価場面ごとの観点や、コ・ス選択に関する観点をカードに設定する。また、自由記述欄も加える。
- ・個人カルテの作成・・・14年度以降のCRTの結果を単元・領域ごとに作成し、一人一人の実態や学級の傾向を把握する。

- テ - マ 確かな学びをはぐくむ指導の工夫
～一人一人のよさや可能性を發揮できる授業づくりを通して～
- 研究の見通し（仮説）
児童一人一人が自分のもつ力やよさ、可能性を存分に生かすことができる指導方法や指導形態、評価のあり方を工夫することによって、児童は学ぶ喜びを感じ、自分の学びをより確かなものにしていくことができるのではないか。
- 研究の内容・方法
 - (1) 15年度の研究の改善・修正
 - (2) 追跡調査とまとめ
 - (3) 個人差に応じた学習形態・指導方法の工夫改善
多様な個人差に応じたコ・スの設定と学習内容の工夫
 - (4) 基礎・基本の確実な定着を図る指導の実施
身に付けさせたい基礎・基本の明確化
定着の時間を保障した指導計画・学習過程の工夫

- 補充的・発展的な学習内容の充実
- フロンティアタイムの効果的な活用
- (5) 一人一人のよさを伸ばし，指導に生かす評価の工夫
- 評価規準の見直しと評価方法の開発
- 関心・意欲・態度を高める自己評価・相互評価の実施
- (6) 公開授業研究会の実施
- (7) 3年間の研究の検証とまとめ

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1 研究の成果

(1) 授業改善にかかわる成果

- 個人差を類型化し，個に応じたコ・ス別学習を取り入れた学習形態を工夫することによって，次のような成果が見られた。
- 秋田県学習状況調査の算数の結果から，6年生においては，H14年度は通過率の全県平均より1.9%低かったが，H15年度の通過率が全県平均より4.6%高くなっている。特に苦手としていた数量関係の領域においては，全県平均と比較して-4.48%(H14年度)から11.5%に上昇した。
 - 意識調査の結果，コ・ス別にすると学習の内容が「よく分かる」「分かる」と答えた児は，90%(H14年6月)から92%(H16年2月)に，そのうち「よく分かる」と答えた児童は43.2%から54%に上昇した。また，コ・ス別にすることによって，
 - 「課題を自力で解決しようとしている」と答えた児童は93%
 - 「先生や友だちの話をよく聞いている」と答えた児童は91%
 - 「勉強が楽しい」と答えた児童は86%
 - 「選んだコ・スが自分に合っている」と答えた児童は93% (H16年2月)
 という結果が出ており，コ・ス別学習は児童に受け入れられ，理解を深めるのに有効であると思われる。
 - 指導者は，学習形態を固定することなく，児童の実態や単元の特性，単位時間のねら

い、内容等に応じて、有効と思われるコ・スを組み合わせることが柔軟にできるようになってきている。

- それぞれのコ・スの児童の実態に応じて、身に付けさせたい力や引き出したい力を明らかにすることによって、そのための手立てが充実してきた。特に、理解・知識・技能などの習熟に応じたコ・ス別の指導においては、これまではコ・スごとに課題を変えることを中心にしていたが、「練り合いにたっぷり時間をかけて、自分の考えをきちんと話せるようにするコ・ス」や「操作活動をふんだんに取り入れて、分かる喜びを実感させるコ・ス」など、ねらい達成のための学習過程がコ・スごとに工夫され、複線型の授業が展開されるようになってきた。そのため、担当教員がそれぞれに教材研究を深め、互いに交流し合うようになってきている。
- 算数担当教員が複数学年にかかわることによって算数の系統性を踏まえ、つまずきの多い内容について重点的に指導したり、次学年での学習を見通して全員に経験させた方がよいと思われる発展的な内容を取り扱ったりして、指導に生かすことができた。
- 学習過程に対応した観点別の振り返りカードを使用することで、児童の意識の変容を把握するとともに、指導にも生かすことができた。自己評価の低かった観点についてはその日のうちに学び直しをしたり、学習過程を見直したりして次時の指導に生かすことができた。

(2) フロントアタイムにかかわる成果

- フロントアタイムを時間割に位置付け、全校体制で計画的・継続的に取り組むことによって、学習に対する児童の関心や意欲が向上してきている。勉強について自分が以前よりがんばっていると思うこととして、チャレンジ学習やもりもり学習・テストを目標に家庭学習をする時間や量が増えたことを挙げている児童が多く、家庭学習が習慣化されてきている。また、高学年では家庭学習の内容を工夫するようになったという感想もあり、質的な面でも充実してきていることが伺われる。意識調査の結果は次の通りである。「宿題は忘れずにやっている・だいたいやっている」と答えた児童

H15年9月 85.4% H16年2月 94%

「宿題がなくてもいつも家庭学習をしている・だいたいしている」と答えた児童

H15年9月 54.6% H16年2月 70%

「家庭学習をまったくしない」と答えた児童

H15年9月 18.5% H16年2月 9%

特に4年生については、家庭での勉強時間が30分未満の児童が50%（H14年6月）から、33.3%（H16年2月）に減り、「家庭学習をいつも・ほとんど」やっている児童は85%、全くやらない児童は0%となった。

2 今後の課題

- 秋田県学習状況調査やCRTの結果、学年や領域によって成果が十分に認められないところもある。授業が「分かった」と感じていても、分かったことを活用して「できる」までに至っていなかったことが伺われる。定着や習熟を図る時間を十分保障するなど指導計画や学習過程を工夫し、「分かった」ことを生かして「できる」指導をすることによって、基礎・基本の確実な定着を目指したい。
- 練り合いの場面は、話し合いが深まらず、単なる発表に終わってしまっている。立場を明らかにさせたり、話し合いの視点を絞ったりするなど、教師からの働きかけが必要である。また、練り合いが成立するような課題の工夫も求められる。
- 作成した評価規準を活用して、これまで明確にしていなかった児童の学習実現状況と評価の関係を明らかにし、指導に役立つ評価方法を探る必要がある。また、関心・意欲・態度は量的なとらえ方をすることが難しい学力である。したがって、評価規準を明らかにして、客観的なものにしていく必要がある。
- 少数ではあるが、コ・ス別学習に抵抗を感じている児童がいるという事実を真摯に受

け止め、コ - スの選択の仕方やコ - スに応じた指導方法を改善し、より有効な方法にしていきたい。

学力把握のための学校の取り組みについて

- 定期的な学力調査の実施と分析
 - ・ C R T （年 1 回，個人カルテの作成）
 - ・ 学習状況調査 （年 1 回）
 - ・ 能代山本地区郡市一斉算数テスト（年 1 回）
 - ・ 校内休み明け漢字・計算テスト（年 2 回）
- 学習に関する意識調査の実施（年 2 回）

フロンティアスクールとしての成果の普及について

- 1. 開催実績
 - (1) 授業研究会の公開
 - 日時 平成 1 5 年 5 月 2 1 日（水），6 月 1 0 日（火），7 月 2 日（水）
 - 場所 森岳小学校
 - 対象 山本町内の小・中学校・地区のフロンティアスク - ル
 - (2) 自主公開研究会の開催
 - 日時 平成 1 5 年 1 0 月 2 日（木）
 - 場所 森岳小学校
 - 対象 能代山本地区の小学校・山本中学校・県内のフロンティアスク - ル
 - ・ 算数科とフロンティアタイムの授業を公開した後，全体会と分科会を開催して取り組みの紹介や成果と課題等について協議した。指導を受けた点については，今年度後半の研究に生かしてきた。また，もりもり学習については，参加校から問い合わせがあり，問題や方法の詳細を紹介している。
- 2. 開催予定
 - 公開研究会
 - 日時 平成 1 6 年 1 0 月 7 日（木）
 - 対象 能代山本地区の小学校・山本中学校・県内のフロンティアスク - ル
- 3. HPの更新（<http://www.shirakami.or.jp/^morishou/tyarennji3.htm>）

【新規校・継続校】	1 5 年度からの新規校	1 4 年度からの継続校		
【学校規模】	6 学級以下 1 3 ~ 1 8 学級 2 5 学級以上	7 ~ 1 2 学級 1 9 ~ 2 4 学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T . T による指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	